

令和4年 第2回 教育委員会定例会議事録

招集日時 令和4年2月22日（火曜日）午後1時30分開会／午後4時閉会

招集場所 加賀市民会館2階 第2会議室

教育長 山田利明

出席委員 篠原隆一、山下裕嗣、疎幹子、佐野明子

会議列席者 梶谷事務局長、公下次長兼学校指導課長、宮永次長兼教育庶務課長、上出生涯学習課長、池端中央図書館長、山下山中図書館長、左古教育総合支援センター所長、出淵スポーツ推進課企画官、鳶崎文化振興課長
重谷教育庶務課リーダー

令和4年第2回教育委員会定例会開会宣言

挨拶

○山田教育長 今、まん延防止等重点措置が3月6日まで延びて大変な状況にあるんですが、加賀市の状況を見てみると、大体は収まっているんですが、学校によって一人出るとその兄弟、家族の中で感染して、その学校で広まると。学級閉鎖措置等をするとうる々に収まるんですが、また違う学校でというところで、全体としてはやはり落ち着かない状況が続いております。一気に全体に広がっている感じではないんですが、少し出て落ち着いて、少し出て落ち着いてというような状況が続いていると思っております。皆さんも報道をご覧になってびっくりされたと思うんですが、世界銀行が、このコロナが流行することによって世界で2,000億円の生涯賃金が失われていると発表しました。やはり学校でしっかり勉強するということは、将来の所得に繋がるんだということ、安易に学校を閉めるのではなくて、子どもにはしっかりと教育を与えて、立派な子どもを育てていくという本当に大事な国の将来を担っている、そういうような仕事なんだということをもう一度自覚して、綱渡りが続いていますけれども、綱から落ちないようにしっかりコントロールしながら進めていかないといけないと思っております。

それでは議件に入りたいと思います。本日審議事項は4件です。議案第6号、令和4年度当初予算(案)に対するご意見・ご質問への回答について宮永次長お願いいたします。

- 議案第6号 令和4年度当初予算(案)に対するご意見・ご質問への回答について
宮永次長 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○篠原委員 well-being のプロジェクトマネージャーの具体的な職務内容について、どういうことをなさるのか教えていただきたいと思っております。

○山田教育長 宮永次長、お願いします。

○宮永次長 大まかにいいますと、教育長を補佐する役職になります。どういった内容かといいますと、新聞にも出ておりました義務教育学校開設に向けての準備であったり、魅力的な高校の企画運営を考える上で、例えば文部科学省と交渉したり、県の教育委員会と調整したり、

当然その校区の地域の子ども達、先生方、学校関係者、保護者や地域の皆さんとの連携調整をしたりということで、かなりの業務を総括して管理するという役職になるかと思えます。ですので、役職的にはかなり上の管理者というかたちで、会計年度任用職員ではありますけれども、階級的にはかなり上の役職としてその業務にあたっていただくかたちになるかと思えます。

○篠原委員 職務的には局長と同レベルの方だというふうに認識すればよろしいですか。命令系統がありますよね。あるいは教育長に専属で付いているアドバイザーというかたちになるのか。指示命令系統が変わってくると思うんです。その辺の位置関係を教えてください。

○宮永次長 あくまで今の想定というところですけども、基本的には今、教育長が事務局のトップとして指示命令系統があります。事務というところでのトップとして事務局長がおいでますけれども、今回の地域プロジェクトマネジャーの場合は、新しい学校体制づくりに特化した専任ということで、教育長の指示を受けながら業務を行なっていくというところで、事務局長は教育委員会の事務全般ということですので、それ以外のことも含め会計的なことも事務調整的なこともすべて管理するのが事務局長というかたちになっていくかと思えます。今回採用される方は well-being という学校体制づくりという業務に特化した管理職になるか今のところは想定しています。

○篠原委員 その方は専門のプロジェクトチームのリーダーだということで、そのプロジェクトで話し合ったこととか、いろいろな課題について教育長にアドバイスあるいは諮問するという立場で、直接的に他の職員の皆さんとは指示命令が重なることはないということで理解すればよろしいですか。

○宮永次長 当然その方一人で業務をするというわけではないので、その方の指示のもとで業務を兼務的に担うような職員も出てくるかと思えます。

○篠原委員 来年度の4月からその方が任用されるということなので、だいたいの人事の目途というのはついていらっしゃると思うんですが、どのような方をイメージされているのか。これは市内、県内のレベルではないと思うんです。全国レベルだと想像しますけれども、どのような方をお考えなのか、そのイメージだけで結構ですので教えていただきたいです。

○宮永次長 基本的には経験も必要かと思えますが、やはり教育長を補佐しながらということですので、マネジメント能力も当然ですし、調整能力も必要というところの経験がある、もしくは経験がなくてもそれに準ずるような能力があるというふうなところは面接等で判断していくことになると思います。今、現在もうすでに市のホームページ等で3月上旬まで公募というかたちでかけております。当然先だってお話を聞く Teach For Japan さんもいろいろな人材のこともご存知かもしれませんし、そういったところで良い方がいれば応募してもらおうような声掛けも行なっております。良い方がいるかどうかはしっかりと見極めながらになるかと思えます。

○篠原委員 今、全国公募の状況だということで、3月上旬以降に選考会があって、その上で決められるということですね。ありがとうございます。

○宮永次長 補足で、今回この地域プロジェクトマネジャーは地域おこし協力隊と同じで、地元採用ということができないので、都市圏から移住定住を前提としたプロフェッショナルな人材をということになります。地域おこし協力隊も同じようなかたちですが、そちらのもう少しワンランク上の、地域の政策に深く携わる業務を担うという制度でございます。ただ対象者は

地域おこし協力隊と同じような条件なので、なかなか地元での募集活動は該当しないので、都市圏に向けての情報を発信している状況です。

○山田教育長 他、ございませんか。

○山下委員 教育振興事業費の中の、その中の社会の well-being を実現する学校づくり事業費の中に給与費があって、同じところに義務教育学校・公設民営学校の開校等プロジェクト推進業務委託費があります。この 1,800 万円をこの方に任すというのではなくて、また別口のものかなというのと、もうひとつ地域ということで、地域からの採用が望ましいのかなと思ったらそうではないということ、そして単年度採用ということですので即戦力になるのかどうかというのを少し詳しく検討していただきたいという意見でございます。単年度なので、半年勉強期間となれば半年間無駄になってしまいますので、その辺少し我々にも示していただきたいです。

○山田教育長 宮永次長、お願いします。

○宮永次長 おっしゃる通りで委託業務としては 1,800 万円でございます。この方は教育委員会の会計年度任用職員として採用ということですので、立場上は市が採用した公務員というかたちで、その方が委託する事業者さんと協力しながら業務を進めていく中で、県の教育委員会や文部科学省と調整を行なっていただくということになります。ですので別というふうに分けておりますが、業務としては一体でやっていくというような状況です。当然即戦力でないと話にならないので、仕事を覚えたり調整している間に半年、一年過ぎていくとその分お金もですが、業務も遅れていきますので、その辺はしっかりと即戦力となるような人材を採用したいと思います。

○篠原委員 いわゆる well-being のマネージャーさんと、義務教育学校の委託費の中に入ってくる市としての任用職員は別の方ですか。その方に全部、委託するんですか。

○宮永次長 委託するのは、準備のことも含めて、新しい体制づくりの企画をしていっていただく部分での業務になってくるかなと思います。今回、例えば義務教育学校を設立しようとしたときに、当然カリキュラムをどうするかとか、そういうところは十分カリキュラムを組んでいけるような方を採用していただいて、学校側と調整したり、地域と調整したりする中で、新しい体制のカリキュラムを組んでいただくこともこの方を中心にしていっていただきます。

○山田教育長 他、ございませんか。よろしいですか

では議案第 6 号、令和 4 年度当初予算(案)に対するご意見・ご質問への回答について賛成の方は挙手をお願いします。

○委員 全員挙手

○山田教育長 全会一致で可決といたします。

続きまして議案第 7 号、加賀市教育基本計画基本目標における各施策の達成状況について宮永次長お願いいたします。

- 議案第 7 号 加賀市教育基本計画基本目標における各施策の達成状況について
宮永次長 資料に基づき説明

○山田教育長 大きな項目が 7 つありますので、7 つに分けてご質問、ご意見をいただいて最

後に決を採りたいと思います。まず1番目、新しい時代を生き抜く力をはぐくむ学校教育の実現、こちらについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○篠原委員 4ページの家庭学習時間が各学年の目標を達成した割合のところをお願いいたします。小学校が平成28年度の82%から、今年度末には69%と急激な低下をしています。この分析としてゲームやネット、動画等を見ている時間が多くなったと書いてあったんですけども、一昨年3月、いわゆるコロナで学校が休校になりましたよね。それに伴って私自身の予想としては、家庭学習の時間が増えたと思っていたんですが、減ったということで愕然としています。これは家に居る時間が増えたので、余計ゲームやネットに依存している割合が増えたのかなと考えられますけれども、やはり学校側の働きがけとして、当初はプリントの教材等を配布していたと思うんです。そういうことも踏まえて、このようなかたちで家庭学習時間が低下しているということは、すなわち学力低下にもなってくるんじゃないかと危惧されます。やはり教育委員会としてはこの数字を厳粛に捉えていただきたい。単なる家庭学習の問題ではなくて、学習習慣を加賀市の子ども達にきちんと身に付けていただきたいと思いますので、教育委員会として各学校に指導していただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。これは意見でございます。

○山田教育長 他、ございませんか。

○山下委員 同じ部分で、小学校が減少しているんですが、家庭学習の家庭への啓発は具体的にどのようにされているのかお聞きしたいです。

○山田教育長 公下次長、お願いします。

○公下次長 結果につきましては校長会等でも示しながら、加賀市の子ども達の学習習慣を各学校別でも提示しております。教育委員会としてもどういうふうにして取り組んでいくべきかという指導については今後もしていきます。今お話がありましたように家庭の方ですが、1人1台のパソコンでの家庭学習での取り組みの仕方とか、それから各学校においても家庭学習への取組みということで、年度当初にプリントを出したりですとか、そういう指導はしております。ただその効果的な部分があまり出ていないのかなとは思っています。そこは今までの取り組みを再確認しながら改めて考えていかななくてはと思っています。

○山田教育長 これは学校評価の子どものアンケートが元ですよ。このデータをとったのは12月でしたか。

○公下次長 学校評価を年に3回とってまして、今回出したのは喫緊の2学期のデータのものです。

○山田教育長 子ども達はアンケートをとった辺りの自分の学習時間について答えていて、2学期末ですね。休校している時期ではなかったんですが。

他、ございませんか。

○棟委員 学力向上公営塾の開催なんですけど、今ある私塾の学習塾も公営塾として参加してもらう場合、そこに通っている人と公営塾に通っている人は一緒に勉強をするんですか。

○山田教育長 宮永次長、お願いします。

○宮永次長 もともと教育振興基本計画の中に学力向上公営塾ということで、かがっこ休日スクールと放課後かも丸塾を開催して、学習意欲と学力の向上を図りますというところでしたので、最初の設定としてはこの二つをしっかりと充実させていくという目標でございました。さ

らに今年度にはここにはないものとして補強して私塾の放課後塾というものも追加でしているという状況です。

○山田教育長 他、ございませんか。

○山下委員 5ページの小中学校の不登校児童・生徒の割合で、令和3年度目標なんですけど、前回の0.3%から0.4%に上がっているんですね。あくまでもこれは目標なので、目標は0にするべきではないのかなという意見があります。それから最終評価の中に、学校は保護者との連携を密にこなっていますけれども、今コロナの状況や家庭環境もありますが、保護者と密な連絡が取れているのか現状が知りたいです。連絡が取りづらい保護者の場合はどのようにされているのかも教えていただきたいです。

○山田教育長 公下次長、お願いいたします。

○公下次長 目標は0でいきたいところはあるんですが、ただ実態に合わせてという部分でこういうデータになっております。令和3年度のデータに関しては、これは令和3年度末はまだ出ておりませんので、令和2年度の数値ということで見ていただきたいと思います。

保護者との連携に関しては、学校の方が連絡を取って会える子もいれば、なかなか会えない子もいますし、学校はそこは本当に努力をしております。直接的に会えない状況があったとしても、スクールソーシャルワーカーが間に入って学校と保護者をつないでいただいている例もいくつかあります。それによって不登校が解消して育成センターに通える子も何名か出てきております。そういう点では直接的、間接的なやり方での連携を密にこなすということで、スクールソーシャルワーカーも関わる件数も増えてきている状況です。

○山田教育長 子どもの安否はしっかりと確認しないといけないので、いろんな方法でとにかくしっかりと生活しているか、そこは学校はしっかりとやっていると思います。

他、ございませんか。

○篠原委員 同じところで最終評価を見ますと、原因が多種多様化しているという感じで書かれているんですが、やはり平成28年度の実績と令和2年度末の実績を比べると、大幅に増加しているのは間違いないですね。スクールソーシャルワーカーとかカウンセラーとかいろいろなありとあらゆる手を尽くしながらも、これが減ってきているならわかるんですが、増えてきているので非常に疑問に思います。これは私の想像ですが、コロナ禍で家にいる時間が増えて、学校へ行くのが嫌だなと思っていたのが、別に行かなくてもリモートになって、つつい家の中にいる機会が増えたのかなとも考えましたが、それにしても多いなと思っています。従来の支援の方法も抜本的に見直さなければいけないのではと感じます。不登校が起きたと、だから従来通りにスクールソーシャルワーカーを入れてとその都度していてもなかなかこれは難しいと思います。中間評価にQ-U検査の活用と書いてありますよね。やはり事前に学級集団の状況をきちんと把握しておかないと、起きたことを叩いていてもよくないので、前もって不登校に至らないような学級集団や子どもの状況をつくっていく、そういうことを考えていかないと今後なかなかこの数字は減るのは難しいのではないのかなという恐れがあります。最終評価の「新規不登校を防ぐ取組を組織的に対応していくことが重要課題である。」とありますが、組織的な対応とは具体的にどういうことをなされるイメージがあるのかお聞きしたいと思います。

○山田教育長 公下次長、お願いします。

○公下次長 不登校についてはなかなか減少というのは難しい課題ですが、学校の取組みによ

って少し減少傾向がみられる学校も出てきております。今、お話がありましたように多種多様というのは学力不振だけではなく、人間関係などいろいろなことが重なった中で、一つの原因を払ってもなかなかそれだけで解決がつかないことも多いです。対応策としては小学校から中学校へ上がるときに、学校間での児童生徒の情報交換は十分にしております。新規不登校を防ぐ組織的な取組というのは、今までどうしても担任が一番責任を感じる場合が多く、その中で辛い面もあったんですが、いろいろな事情がある中で学校全体で必ず取り組んでいく、そのときは担任だけではなくて、生徒指導担当から教育相談の担当者もおりますので、そういう方たちと組織の中で情報交換をしながら、関われる範囲で全体で関わっていこうというところで取り組みをしております。そちらをもっときちんとしていこうと思います。

○篠原委員　私が今思うのは、先生方が忙しすぎて、子どもと関わる時間が本当に少なくなってきたんじゃないかと心配しております。学校ではいろんなサポート教員等の先生方を助ける手立てを尽くしているんだけど、残念ながら子ども達と先生が向き合って話す時間が本当に少ないんじゃないかと思っております。ましてや今はコロナですから、先生方が非常にお疲れになっているんじゃないかと非常に心配されます。国の制度ですから、先生方の数をすぐに増やせというのも難しいかもしれませんが、市長さんも教育は大事だとおっしゃっていますので、できれば先生方の負担をできるだけ減らすようなかたちでの、市単での採用もぜひお願いをしていきながら、やはり加賀市の中で学校に行けない子ども達が一人でもいなくなってほしいと願っております。先生方の努力は非常に感じております。ですからもっと行政の方でバックアップできるところは力強く応援してあげていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○山田教育長　他、ございませんか。

○山下委員　現状としてスクールソーシャルワーカーの数が十分に足りているのか教えていただきたいです。

○山田教育長　公下次長、お願いします。

○公下次長　今、男性と女性の2名がおります。それぞれ小学校と中学校で分担しながら活動していただいております。だいぶ経験も長いので、対応の仕方とかそういう点ではうまくやっております。人数に関しても、私の感覚的には人材さえいけば増えていってほしいという思いはありますが、ただ誰でもというわけではないので難しいところはあると思います。

○山田教育長　左古所長、お願いします。

○左古所長　スクールソーシャルワーカーの活動について簡単にご説明します。やはり不登校になってから動くというよりも、今スクールソーシャルワーカーの方も定期的に学校訪問をしています。学校訪問をしながら管理職と話をしたり、生徒指導と話をしたりして、予備軍という言葉が妥当かわかりませんが、各学級の中でどうしてもはずれそうな子、それから学力不振に陥ってもしかしたら不登校になるんじゃないかという子についても、懇談を通して把握するようにしています。今定期的にすべての小中学校を回るようにしております。今の時期はコロナ禍で難しいところもあるんですが、そのように事前に予知をする、そういう活動も行なっております。また実際に不登校になりまして学校の方に足が向かない子が何人もおります。そういう子のお家に訪問するんですが、ただ学校と保護者がやり取りをしてオッケーがでないと勝手にそれぞれのお家に訪問することはできないので、そこが難しいところです。連絡

がつけばそのお家へ行って子どもと過ごす時間を作りまして、経験があるスクールソーシャルワーカーの場合は、ドライブに連れていくとか別の見学先に行くとか、そのように人間関係を作って、なんとかのぞみ教室につなげるということを今しています。今現在 22 名こちらの方に通室のお願いが出ておりますけれども、ただ毎日のぞみ教室に通えるわけではありませんので、また来られなくなったときにはスクールソーシャルワーカーが家庭訪問をしたり、またセンターの方も家庭訪問を時々しながら関係性を切らないように努めているところです。

○**山下委員** まさにご質問したかったことをお答えいただきました。先ほど担任の負担が大きいということでしたので、担任でなくても直接スクールソーシャルワーカーとお話ができる機会があればいいんですが、そういうのは組織的には難しいのでしょうか。直接、学校を通さずにお話をする、そしてスクールソーシャルワーカーと生徒本人で解決を進めていく、その報告のみ学校にあがるようなかたちであれば、あまり学校の負担もないのかなと思います。不登校というのはいろんな要因があると思います。中学校に入ればメンタル的なものが非常に大きいと思うので、スクールソーシャルワーカーとの関係が非常に重要かと思います。その辺スクールソーシャルワーカーの数がもっとあればいいと思いますし、直接お話ができないのかなという意見でございます。

○**山田教育長** 他、ございませんか。

○**篠原委員** ふるさと学習についてですが、ここ 10 年余り小学校 4、5、6 年生が各展覧施設に行っているんですが、ここに中学校としての総括がなされていないんですね。小学校はもうひとつ増やしていきたいというお話もあったかと思います。ですが、中学校のふるさと学習に対する熱意というのがさほど感じられないです。副読本も活用されているのか。中学校の取り組みに対する現状、あるいは今後充実させるにはどうしたらいいかということについてお聞きしたいと思います。

○**山田教育長** 公下次長、お願いします。

○**公下次長** 実際、総合などでは地域とお話は聞くんですが、もう少し中学校の状況を把握したいと思います。これは全国学力学習調査の質問紙の中の、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という、これもふるさととの関わりだと思んですが、小学校は市が 68%で県が 73%、全国が 58%でした。中学校は市が 56%で県が 55%、全国が 44%だったので、確かに授業の中での組込みというのはもう少し考えていかないといけないと思いますが、いろんな地域行事の参加というのは、もしかしたら加賀市の中学生の子ども達はいろんな参加で関わりを持っている状況が全国や県に比べては上なのかなと思います。ただもう少し中学校の把握はさせていただきたいと思います。

○**篠原委員** 小学校ではある程度、ふるさと学習が教科の中や総合の中に組み込まれてきているんですが、中学校ではそういった動きがほとんど見られません。社会科の中での郷土学習、あるいは副読本が中学校にもあるはずなので、そのようなものをどう使っているのか。どうしてもふるさと学習が横に置かれている可能性があります。やはり加賀市として大きな教育振興基本計画に入っていますので、そこを充実させていただきたいと思っております。

○**山田教育長** 歴史文化は課題があると思いますが、今年度から全中学校で STEAM 教育に取り組んでいて、例えば片山津中学校ですと、地域の課題をどうやって ICT を使って解決しようかというようなことで、実際に地域に出かけて、それをまとめて発表して、そして地域の人に

来てもらってそれを見てもらうという、そういうことも行なっております。

○篠原委員　　そういう取り組みはわかるんです。そのベースとなるものがないとやはりだめだと思います。そういうことを学ぶ機会がないんだと思うんです。そういうことを学ぶ機会をぜひ設けてほしいというのが私の願いです。

○公下次長　　今、STEAM 教育の話もありましたが、いろんなところで地域とのつながりはできているんですが、今言われたようにいわゆる教科の中とか、小学校のふるさと学習と被らないような中学校らしいものを、まず現状把握しながら考えていきたいと思います。

○篠原委員　　高校でも地域学習の動きが出てきています。中学校だけ抜けているのでぜひ充実させていただきたいです。

○山田教育長　　他、ございませんか。よろしいですか。

続いて2番目、学びを支える安全・安心で魅力ある学校環境の実現のところで何かご意見、ご質問ございませんか。

○山下委員　　6ページの太陽光について、元の目標を見ますと、「普通教室の冷房化工事や大規模改修等にあわせ、自然再生エネルギーである太陽光発電設備の導入や、環境面から雨水の利用や壁面緑化などを進めていきます。」とありました。冷房の方は改修が終わったんですが、こういったことを並行して検討されたのかというのがまず1点です。次に8ページの奨学金について、加賀市育英資金制度についてなかなか利用されている人が少ないということでございます。他にも日本育英会等々の奨学金制度が充実しているわけでございますので、あえて加賀市の奨学金を選択する何かがあるのかというご質問でございます。以上2点お願いいたします。

○山田教育長　　宮永次長、お願いします。

○宮永次長　　冷房化の方は今、普通教室が終わって特別教室も進めているところでございます。太陽光発電については市の事業というよりも、学校の屋上を貸すというかたちで、それを運用していくのは民間ですけれども、その電力は学校で使ったり売電できる場所はするということかたちで、なるべく市の政策として太陽光発電の事業をより拡充していくという中で、今かなり進めていて、できる場所は学校の屋上に設置している状況であります。

加賀市育英資金の方は無利子ではあるんですけれども、なかなか高校まで行くと利用者が少なくなってきた状況ではあります。特にコロナ禍で緊急支援策ということで令和2年度に行ないましたので、皆さんそちらの方を利用していただいたというところがございます。あとは三森良二郎の奨学金と加賀市の奨学金を一緒にして充実させていきながらというところで、加賀市育英資金はPRが足りないのかなと私も思ったりもしているんですが、学校にも案内しながらぜひ利用してほしいということは発信している状況です。ここ近年でいうと、コロナ対策での支援を充実したというところで利用がなかったのかなという状況です。

○山下委員　　加賀市の奨学金を利用するところですよという何かがあるのかなというのは特にはないですか。

○宮永次長　　そういうものは特にはございません。もう少しPRしてもいいのかなと思っておりますので、もう少し分析というか、反省すべきところはしながら改善を図りたいと思います。

○山下委員　　加賀市の育英資金を利用して、例えばいずれ加賀市に戻って就職されたり、永住されたりする方になにかしらの利点があると、リターンも増えるし、じゃあ奨学金を利用しようかなという方も増えるのかなという意見でございます。

○宮永次長 おっしゃる通りで、加賀市で学んだ子ども達が加賀市に戻ってきてくれるのが一番なので、そこのメリットを考えていくというのもひとつあるのかなと思います。三森良二郎の場合はそういった制度を設けておりますし、来年度から行う海外留学の支援の方も戻ってきたらその分をということですので、支援をしっぱなしではなく、加賀市に還元してほしいということもありますので、また検討をしたいと思います。

○山田教育長 他、ございませんか。

○篠原委員 安全でおいしい給食の提供のところの、給食が好きと答える児童・生徒の割合で、令和3年度の結果ですが、令和元年度と書いてありますよね。なぜ少なくとも令和2年度とか、令和3年度の12月締めとかにならないのかをまずお聞きしたいです。

○山田教育長 宮永次長、お願いします。

○宮永次長 こちらは3年に1回定期的に行なっておりまして、その結果で直近のものというデータになります。

○篠原委員 前よりも若干下がってきて、今はもっと下がってきているのかなと予想されます。今学校でお聞きすると、給食の時間はものすごく静かだと。いわゆる黙食ですね。給食といえば、子どもが一番リラックスする時間だと思うんです。これはどうしようもないんですが、給食の調理員さんは皆さん一生懸命作ってくださっていて大変美味しいです。なので、この結果だけにとらわれないで、調理員さんや栄養士さんを励ましてあげていただきたいです。子どもが好きな割合が減ったからと、どうなっているんだということがないようにしていただきたいです。よろしく願いいたします。

○宮永次長 やはり調理員さんも栄養士さんも頑張っているんで、今のご意見もお伝えしながら、より良い給食の提供に努めたいと思います。

○山田教育長 他、ございませんか。よろしいですか。

それでは3番目、学校・家庭・地域が連携・協力し、社会全体で取り組む教育力の向上のところについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○山下委員 10ページの学校から家庭、地域への働きかけのところで、学校便りやホームページ等で学校の様子がよくわかると回答した保護者の割合で、よくわかるという割合が非常に多いなと思っているんです。回答をいただいた保護者の数ですね。全体の保護者の何パーセントの方々にお答えいただいたのか、もしわかれば有難いと思います。というのは、前にも一度ご質問しましたが、保護者の方はおそらくスマートフォンで見ることが多いと思うんですが、今のところ中学校では3校ほど、小学校ではまだスマートフォンで見られるホームページになっていないんですね。その割にはパーセンテージが非常に高いので、保護者全体の数字と回答された保護者のパーセントが知りたいなと思いました。これが1点目です。次に地域で子どもを見守る活動のところで、各地域のまちづくり推進協議会との連携について現状をお示しいただきたいです。そして学校と地域で子どもを育て、地域での結びつきを育成する活動のところで、地域の伝統行事や地域活動への参加指導とあります。具体的にどんなかたちで地域の伝統行事に参加、指導されているのか、もし具体例がありましたらお願いいたします。

○山田教育長 公下次長、お願いします。

○公下次長 保護者の割合ですが、今詳しい資料を持ち合わせておりませんので確認させていただきたいと思います。まちづくり推進委員会との連携につきましては、各まちづくり推進協

議会等に学校から参加して、そこで学校への要望を聞いたり、学校の方が逆に協力していただきたいことを話したりしておりますので、そういった繋がりの中で実情をお伝えしながら解決を図っていくということをしております。

○山田教育長 地域活動に参加指導している学校はありますか。

○公下次長 例えば山代の大田楽の方に参加している学校もあります。

○山下委員 後半の二つの質問に関しては、これからコミュニティスクールを考えていく上で非常に大きいと思いますので、山中は例えばこいこい祭りのときなどがありますが、それだけではなくて、もし他の地域でも常に連携できるような行事があれば知りたいなと思ったわけでございます。

○山田教育長 他、ございませんか。

○山下委員 家庭教育の推進のところで、親の学びの講演会の参加者数について、保護者の数も相当な数にのぼるかと思います。その中で今回の目標が 350 名で、実際は 72 名ということでした。こういった親の学びの講演会を大々的に 1 回するのではなくて、小規模な講演会を各地区で何回か行なって、多くの保護者の方に来ていただくことはできないのかなと思っております。これは意見でございますが、なるべく地区で参加しやすい状況で、たくさんの保護者の方に来ていただきたいと思っておりますのでご検討いただきたいと思っております。

○山田教育長 上出課長、お願いします。

○上出課長 親の学びの講演会については、講演会というかたちでやっていたものもありますし、地区の方でも養成講座というかたちでやったこともございます。ここ数年はコロナということで、人が集まらない状況でございますが、また収束に向かいましたらそのようなかたちで進めてまいりたいと思っております。

○山田教育長 他、ございませんか。よろしいですか。

では 4 番目、ともに学び触れ合う生涯学習の充実のところについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○篠原委員 12 ページの市民文化講演会の聴講者数のところでお願いいたします。現実問題としてコロナで人を集めるのが難しくなっていますよね。それだから減ったとか、だからできないんだということはもう言えないと思うんです。大切な生涯学習の行事、家庭教育の行事なので、きちんと行なって市民の皆さんの啓発を図っていただきたいと思っています。じゃあどうしたらいいのかと。スポーツ推進課の方では加賀温泉郷マラソンをオンラインマラソンにしましたよね。そういったウィズコロナ、アフターコロナを見据えた段階での取り組みが必要だと思うんです。例えば公民館館長会議を zoom でしたり、昨年度の講演会では大阪からオンラインで市民会館の方に中継をして、参加者の方にお話を聞いていただいたということがありました。もっともっと良い知恵がいっぱいあると思うので、コロナだからなくなった、コロナだから少なくなったというのではなくて、次年度は対面での講演というのは減ってくると思っておりますし、いわゆるオンラインでの方法も考えられると思っておりますので、ぜひ工夫をしていただきたいと思っております。もし来年度、このようなことを考えているということがありましたらお聞かせいただきたいと思っております。

○山田教育長 上出課長、お願いします。

○上出課長 今年度につきましても、オンラインでやろうかと業者とも話をしておりました。

講師の選定などに時間がかかっておりまして、ある程度いったところでお断りということもあったものですから、次の方をどうしようかとしているうちに今年1年過ぎてしまったかたちです。来年度についてはこれでもう2年間しておりませんので、今おっしゃったように最低でもオンラインで行なうとか、そういったことを考えております。もしできない場合には、広く一般の方というのではなくて、ある程度対象者を絞ったかたちで何かできないかを考えております。来年度になりましたらまた状況を見て相談しながらやっていきたいと思っております。

○山田教育長 他、ございませんか。

○山下委員 心の教育の推進のところで、まず心の教育推進母体の設置ということで、おそらく目標であげられた青少年育成協議会が設置されていると思いますけれども、その活動状況について、もしくは活動予定について教えていただければと思います。

○山田教育長 上出課長、お願いします。

○上出課長 青少年育成協議会は確か令和3年度の3月に家庭教育の会議と一緒にされております。今年度、具体的な団体と何かしたというのは生涯学習課としてはしておりません。ただ委員さんが県の研修に参加しているとか、そういうところで承知はしております。

○山下委員 施策の中の心の教育推進という部分で、行なったものはグッドマナーキャンペーンのみであったのかなと思ったわけでございます。

○宮永次長 すみません、最初に説明をすればよかったんですが、この教育振興基本計画の中で目標を掲げているものだけを拾い上げております。施策としてはいくつもあがってきているんですけども、その中で目標を掲げているものだけどうなのかと記載していますので、記載はしておりませんが、①、②とあるものについてはご質問いただければと思います。

○山田教育長 上出課長、お願いします。

○上出課長 今、資料を持ち合わせておりませんので、また後でお答えしたいと思います。

○山田教育長 他、ございませんか。よろしいですか。

それでは5番目、健康で活力あふれた人づくりを目指す生涯スポーツの推進のところについて何かご意見、ご質問ございませんか。よろしいですか。

では6番目、地域の文化を高める文化振興事業のところについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○篠原委員 19ページの加賀市ゆかりの人物紹介と発信のところで、これに関して具体的な評価は載っていませんけれども、具体的にはどのような活動をなさっていたのかお聞かせください。

○山田教育長 鳶崎課長、お願いします。

○鳶崎課長 市直接ではないんですけど、江沼地方史研究会の方で人物事典の発行をしております。今、市として考えているのは、大聖寺鴻玉荘がオープンしましたので、そこで大聖寺ゆかりの人物を公開していきたいと思っております。

○篠原委員 (4)の評価にも関係してくるんですが、鴻玉荘が9月から一般公開しているという話ですね。そして21ページの文化財の適正な保護のところの評価の中で、今後も随時鴻玉荘で資料を入れ替えて展示をすると書かれています。9月のオープニングから同じ展示がなされており、半年くらい過ぎようとしておりますが、令和4年度はどういう頻度で展示替えをいくのか、計画がありましたら教えてください。

- 畷崎課長** 展示に関しましては、市でやっているのが北前船と大聖寺鴻玉荘になります。学芸員の数もありますが、北前船の方は年間4回と決まっております、大聖寺の方もそれに準ずるかたちでやっていきたいと思っております。
- 篠原委員** 大聖寺の鴻玉荘も年間4回くらい展示替えを行うということによろしいですか。
- 畷崎課長** 学芸員さんと相談しないと企画の内容がなかなか決まらないので、4回できるかどうかは相談になるかと思えます。
- 篠原委員** 北前船の方も学芸員さんが頑張っていられっしゃいますが、大聖寺の方も展示替えをしていくことが学芸員さんの資質向上のためになるんだろうと思えます。やはり展示を替えながら市民の皆さんに足を運んでいただくというのが基本になると思うんです。そしてコロナが終息して新幹線が加賀温泉に開通したら、全国から大勢の方がいられっしゃることが予想されるので、ぜひ学芸員の皆さんも研修をしていただきたいと思っております。これはお願いです。それから鴻玉荘については、別館や離れのお茶室などいろんな利用の方法があると思えます。少しでも入場者の方にここはこうですよなど、ご案内できるような取組みをしていただけないかなと、こちらも併せて要望です。
- 畷崎課長** どうしても受付業務が中心になっていて、ガイドについてはやはり課題にはなっていますので、施設を持っている側としては、お客さんの対応ができるように育成をしていきたいと思えます。
- 山田教育長** 他、ございませんか。
- 山下委員** 17ページの各展観施設開設ボランティアの養成と活用のところで、現在、展観施設別で登録されているボランティアの方々の数がわかれば教えてください。
- 山田教育長** 畷崎課長、お願いします。
- 畷崎課長** 今、人数は把握しておりませんので、後日また調べてご連絡させていただきます。
- 山下委員** ボランティアさんはなかなか集まりづらいと思えますが、最終評価の中に「対面ガイド以外のサービス提供を、今後検討していく。」とあります。口頭ガイド等の導入を検討されるということによろしいでしょうか。
- 畷崎課長** ここ1年ほどコロナの影響で、入館者の方が来てガイドを頼まれることがだいぶ少なくなっております。昨年ですが、オンライン上で雪の科学館と資料館を巡って、ガイドの方に案内してもらおうということをやりました。そちらも好評だったので、その辺のやり方を今後検討していくべきかなと思えます。
- 山田教育長** オンラインを活用してということですね。
- 山下委員** 多くの施設で今オートガイドでやられていると思えます。そういったことも検討されたらいいのかなと思えますし、やはりガイドがあるから知ってまた来てみたいと思えますので、そういった無人のガイドを検討していただきたいと思えます。これは意見です。
- 山田教育長** 他、ございませんか。よろしいですか。
それでは最後7番目の未来に伝える文化財の保護のところについて何かご意見、ご質問ございませんか。
- 山下委員** (2)橋立・東谷地区伝統的建造物群保存地区保存整備事業の保存地区の適正な維持管理について、多くある空き家物件ですね。こちらの管理の現状についてご説明いただきたいと思えます。

○山田教育長 鳶崎課長、お願いします。

○鳶崎課長 指定物件の空き家に関しましては、所有者さんがおられますので、所有者さんの方で管理していただくことになっております。住んでいなくても、週末に通って維持管理されている方もいらっしゃいますし、遠く離れていてかなり放置されている方もおられますので、その辺は保存会の方に連絡先等を聞いて、保存会とともに連絡をとって維持管理をしていただくようお願いをしております。

○山下委員 遠方にいらっしゃって普段まったく持っているだけの方の空き家というのが、やはり住まないとどんどん劣化していきますので、その辺の管理についてぜひ前向きに進めていただきたいのと、この物件が伝統的建造物に類似するのか、もうそうではないのか個別の調査も必要なのかなと思います。これは意見です。

○山田教育長 他、ございませんか。

○篠原委員 九谷磁器窯跡の調査と整備について、令和2年度に改めて整備の委員会が発足して協議を進めていると書かれています。今年度、どのようなかたちでその整備委員会が進んでいるのか。何回くらい会合を開いたのかお聞きしたいです。

○山田教育長 鳶崎課長、お願いいたします。

○鳶崎課長 令和3年度はこのあいだ第1回の会合を開きまして、そのときに今設置してある窯の修正案について提案しまして、整備委員さんからご意見をいただいておりますので、そのご意見をまた申請して、今後整備計画に反映していきたいと思っております。

○篠原委員 整備の方針が今協議されているところだと思うんですけども、いつを目途に整備を完成させるのかをお尋ねします。

○鳶崎課長 今のところ、窯の修正は行なう予定となっておりますので、窯の修正が終わった段階で国と県と協議するなど、その辺を踏まえて整備を考えています。終了年度につきましては、計画上はあるんですが、補助の関係等がありまして先送りになっているところがあります。実際、当初よりだいぶ遅れていますので、なるべく早く整備したいと考えておりますが、設計が終わっていない場所もまだありますので、その辺も踏まえるといつ頃かはなかなか明言しにくいのが現状です。

○篠原委員 なかなか進まない状況だと判断しました。新幹線が近々開通しますよね。良い機会なので九谷磁器窯跡の方にもたくさんの方が見にいらっしゃるのではないかと予想されます。そこまでには地元と十分に協議をして了解を得た上で、そこを目途に完成させていただきたいです。整備委員会も積極的に開いていただきながら、もっと前に進めていただけないかというのが私のお願いです。

○山田教育長 他、ございませんか。よろしいですか。

それでは議案第7号、加賀市教育基本計画基本目標における各施策の達成状況について賛成の方は挙手をお願いします。

○委員 全員挙手

○山田教育長 全会一致で可決といたします。

続きまして議案第8号、加賀市能のまち推進協議会設置要綱の制定について鳶崎課長お願いいたします。

- 議案第8号 加賀市能のまち推進協議会設置要綱の制定について
 畷崎課長 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。よろしいですか。

では議案第8号、加賀市能のまち推進協議会設置要綱の制定について賛成の方は挙手をお願いします。

○委員 全員挙手

○山田教育長 全会一致で可決といたします。

続きまして議案第9号、加賀市能のまち推進協議会委員等の委嘱について畷崎課長お願いいたします。

- 議案第9号 加賀市能のまち推進協議会委員等の委嘱について
 畷崎課長 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○篠原委員 27ページにオブザーバーと書いてあって、石川県立美術館の学芸員の村上先生のお名前が出ていますけれども、このオブザーバーというのはどういう役割を果たすのか、そしてその位置関係を教えてください。

○山田教育長 畷崎課長、お願いします。

○畷崎課長 委員さんからいろんな意見が出てきて、職員だけではなかなか対応しきれないところも出てくるかと思しますので、その辺も考えまして、県立美術館の方にご意見をいただこうと思ひまして、村上先生にお願いしました。

○篠原委員 要するにこのオブザーバーという方は市側の立場で、委員さんのいろんなご意見に対する応対等を担当するというところでよろしいですか。

○畷崎課長 事務局とやり方等を相談していきたいと思ひます。

○篠原委員 ではこの委員会には出席なさらないということですね。

○畷崎課長 協議会の内容によっては来ていただくことも考えております。村上先生の方には時間があれば協議会の方に来ていただきたいということはお伝えしてあります。

○篠原委員 このような方に教えていただくのは大変素晴らしいことだと思ひます。やはり能のまちが加賀市だということをアピールするためには、具体的にどういうことをしていくのか、どのような活動で子ども達にこれから能というものをやっていってもらおうのかということを考えていってほしいと思ひます。お隣の小松市は歌舞伎のまちだということをおおらかに売り出しておりますので、加賀市は能楽を全面に出してやることは大賛成なので、もっと推進してほしいと思ひます。今、錦城能楽会さんでは子ども能楽教室をやっています。そういうかたちでの支援なども市としてやっていただきたいと思ひております。ぜひ加賀市が能のまちということで発展していくことを期待しておりますので、よろしくお願ひいたします。

○山田教育長 他、ございませんか。よろしいですか。

では議案第9号、加賀市能のまち推進協議会委員等の委嘱について賛成の方は挙手をお願いします。

○委員 全員挙手

○山田教育長 全会一致で可決といたします。

以上で審議事項は終わります。続いて報告事項に入ります。報告第8号、令和4年度小中学校の入学式について公下次長、お願いいたします。

- 報告第8号 令和4年度小中学校の入学式 について
公下次長 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。よろしいですか。

続きまして報告第9号、令和4年加賀市成人式の開催について上出課長お願いいたします。

- 報告第9号 令和4年加賀市成人式の開催について
上出課長 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○篠原委員 成人の年齢が18歳になりましたよね。それに伴って今後、教育委員会としては成人式という名前が使いづらくなってくるんだろーと思いますけれども、今後どのような方針でなされていくのか。例えば二十歳の集いにするとか、いろんな考え方があると思うんです。今の段階で決まっている方針などがありましたら教えていただきたいと思います。

○山田教育長 上出課長、お願いします。

○上出課長 成人式につきましては今後も20歳で行なうということで以前の委員会でもお話しさせていただいたと思います。そのときに名称については今後検討しますとご報告させていただきました。そのときに確か篠原委員から、名称については市が一方的に決めるのではなくて、できればその対象の方の意見もというお話をいただきましたので、また今後検討になりますが、いくつか案を出して、例えばWebのような形式でどれがいいか聞いてみることもひとつの方法だと考えておりますが、まだ決定ではございませんので今後考えていきたいと思っております。他の自治体などでは二十歳の集いですとか、二十歳の成人式とか、そのような名前を考えているところもあるようですので、また検討したいと思っております。

○篠原委員 当事者の意見を聞く機会を作っていただければ大変嬉しく思います。やはり自分達の成人式なんだということで、ぜひ当事者意識に立った会にしていきたいと思っております。今は実行委員会制度になっているんですが、新成人になったという自覚を十分感じられるような式になるように教育委員会の方でご指導いただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

○山田教育長 他、ございませんか。

○棟委員 今年も親御さんは入れないんですね。

○山田教育長 上出課長、お願いします。

○上出課長 いろいろ考えたんですが、今のコロナの感染状況ですと保護者の方を入れるのは難しいと思っております。対象となる成人の方と来賓の方を入れて600名程度、保護者の方はだいたい成人の方の半数程度が来られることが多いので、そうすると1,400名の会場の定員の

半分である 700 名を超えてしまうこととなりますので、やはり安全をとりたいので、今の状況が続けばご家族の方のご入場はご遠慮いただいて、その代わりとっては何ですが、YouTube での配信をご覧いただきたいと思っております。感染状況が好転しまして、まん延防止等重点措置の対象となくなればまた状況を見て考えたいと思っております。

○山田教育長 不測の事態が起きないように、準備をしっかりやっていくということですね。他、ございませんか。

○山下委員 今のところまん延防止等重点措置は 3 月 6 日までになっているかと思えます。実際の開催は 4 月 3 日で、案内はいつの案内にして、最終的に決めるのはいつだと日にちは定まっているのでしょうか。

○山田教育長 上出課長、お願いします。

○上出課長 当初は成人式の 1 カ月前で 3 月 3 日で考えておりましたが、まん延防止等重点措置が 3 月 6 日まで延びておりますので、6 日の状況を見て総合的に判断したいと思っております。成人の方に関しては、2 月の終わりにはご本人様のお手元に届くようにしたいと思っております。その案内のところに、感染状況によっては成人式の内容や方針について変わる場合がありますと、その場合にはホームページでお知らせしますということで、ホームページのアドレスがわかる QR コードを貼り付けてご案内をお出しして、もし急に変わることがあればそちらで周知したいと思っております。まずはまん延防止等重点措置の期限いっぱい判断しようと思っております。

○山田教育長 他、ございませんか。

○佐野委員 保護者の方が入れなかったときが今までもあったと思うんですが、そのときに保護者の方が外のロビーのところで固まって待機されていたこともあったと思うんですが、今回はどのようにされるんですか。

○山田教育長 ロビーで密になるんじゃないかということですよ。上出課長、お願いします。

○上出課長 保護者の方につきましては、できるだけ密にならないようなかたちで、お車でいらしたのであればお車で待っていただくとか、密にならないようなかたちでお願いをしたいと思っております。

○山田教育長 他、ございませんか。よろしいですか。

続きまして報告第 10 号、加賀温泉郷マラソン 2022 の参加申込状況について出渕企画官
お願いいたします。

- 報告第 10 号 加賀温泉郷マラソン 2022 の参加申込状況について
出渕企画官 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。よろしいですか。それではその他で何かございますか。

○上出課長 先ほど、こころの教育の推進について、山下委員からご質問をいただいたところをわかる範囲でお答えしたいと思います。具体的にどのようなことをしたかというご質問をいただいたと思いますが、具体的にはグッドマナーキャンペーンが主になります。あとは市内の子ども会ですとか、青少年育成関係の団体に交通安全の立て札ということで、加賀市安全パト

ロール実施中という黄色い A4 の紙を 3 つに折ったものをお分けしておりまして、そちらを車のダッシュボードですとか、そういったところに置いて走っている車をご覧になったことがあるかと思います。その用紙をこちらで作っておりまして、ご希望があった団体には配っております。その他にはノー携帯ノースマホのチラシを作っておりまして、学校を通して市内の児童生徒に配っております。団体との連携については、PTA 連合会とか子ども会の会合に担当が出席しておりまして、そちらとの連携をしているということと、あとは家庭教育の会議の委員さんになっていただいております、そちらの会議でご意見などをいただいております。以上です。

○山田教育長 他、ございませんか。よろしいですか。

それでは次回教育委員会定例会日程について宮永次長お願いいたします。

● 次回教育委員会定例会日程について

宮永次長 説明

○山田教育長 それでは 3 月 23 日水曜日、午前 10 時からということで予定に入れておいてください。

それでは以上で第 2 回教育委員会定例会を閉会いたします。

御苦労さまでした。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。